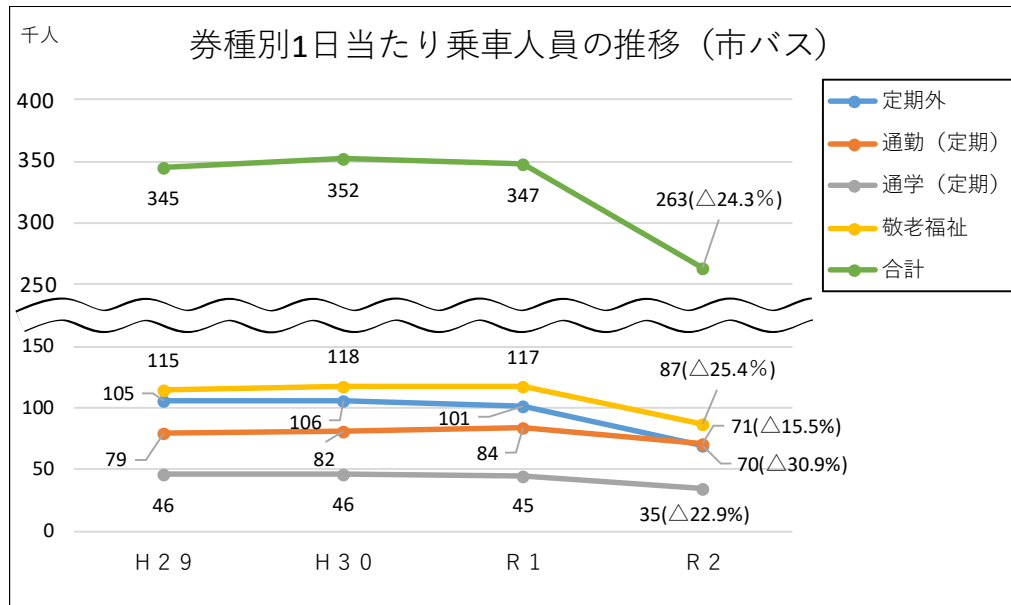


令和2年度の市バス・地下鉄のご利用状況等について

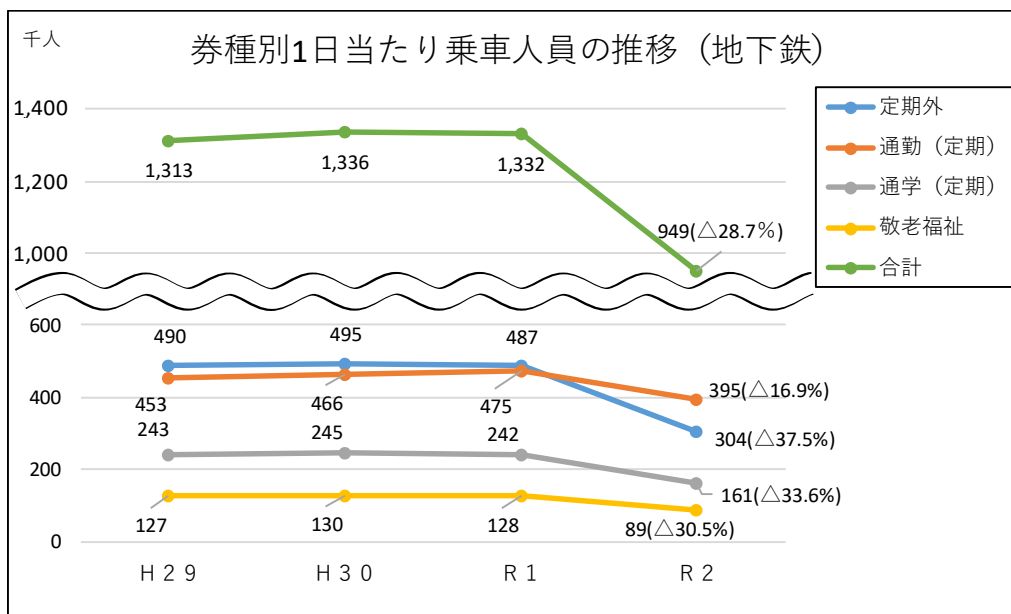
(1) 券種別1日当たり乗車人員の年度推移 () 書きは対前年度比)

市バス



※合計は、貸し切りを除く

地下鉄

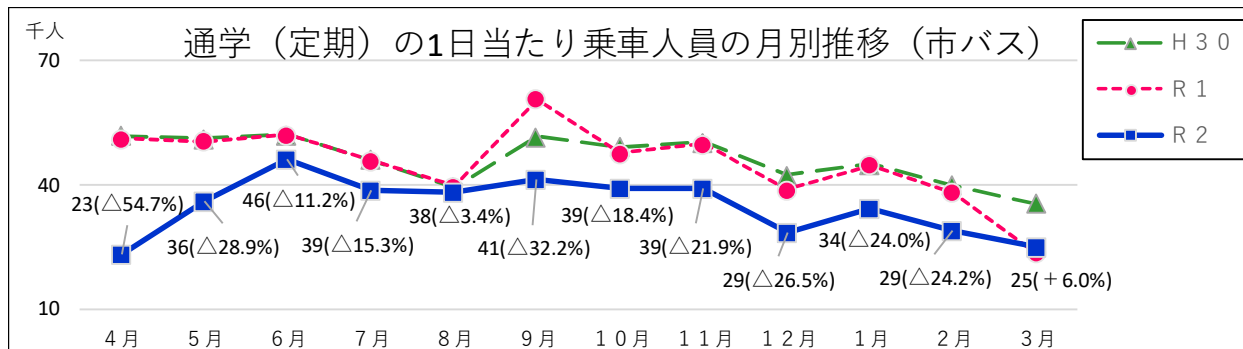
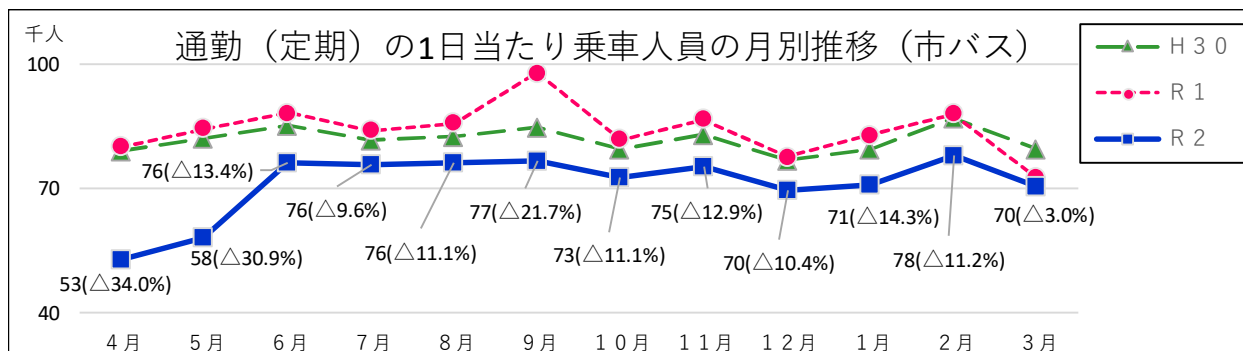
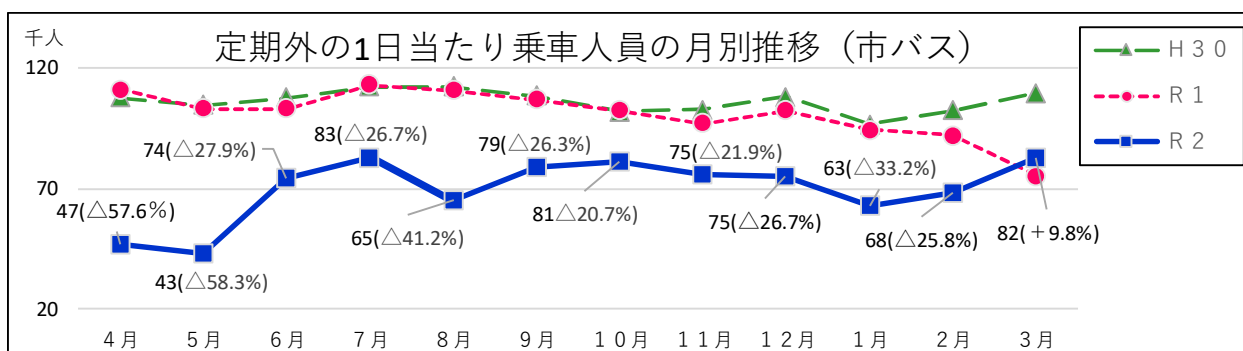
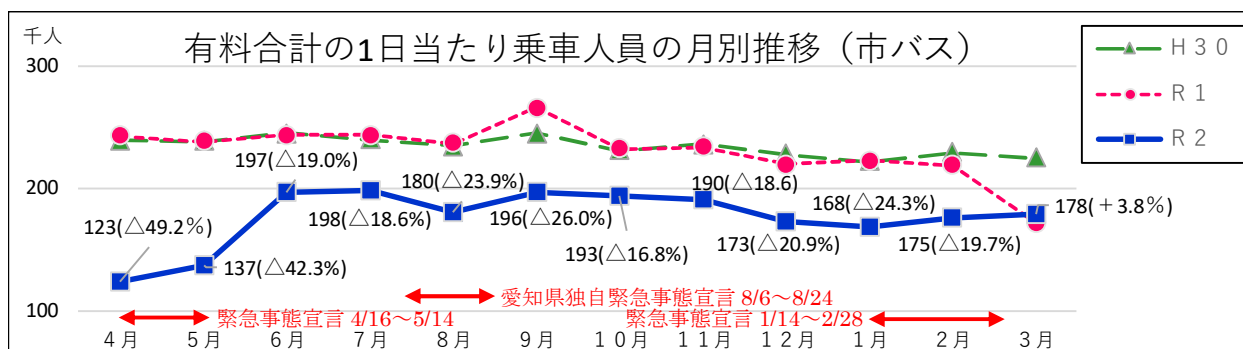


○ポイント

- ・令和2年度の乗車人員は、市バスで対前年度△24.3%、地下鉄で△28.7%となった。
- ・券種別でも、全券種において対前年度△15%～△40%の大幅減となった。
- ・減少幅が最も大きい定期外は、市バス△30.9%、地下鉄△37.5%、一方、減少幅が最も小さい通勤 (定期) は、市バス△15.5%、地下鉄△16.9%となった。

(2) 有料券種別1日当たり乗車人員の月別推移 () 書きは対前年度比)

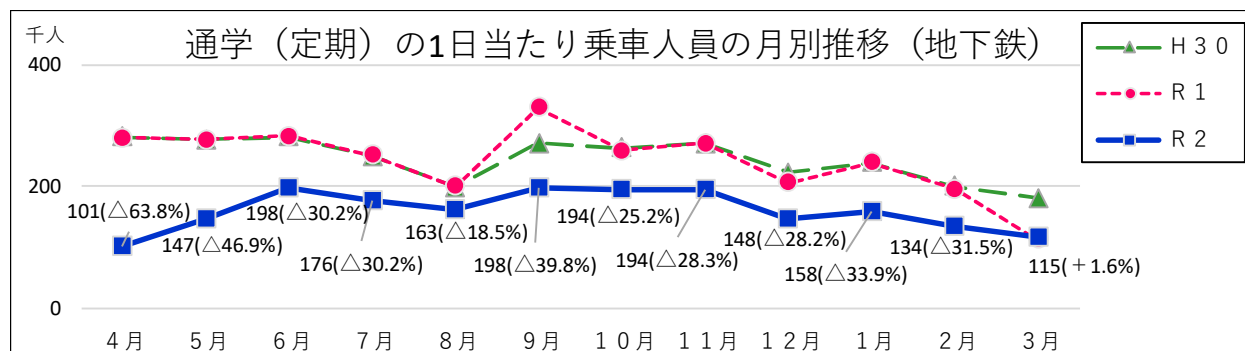
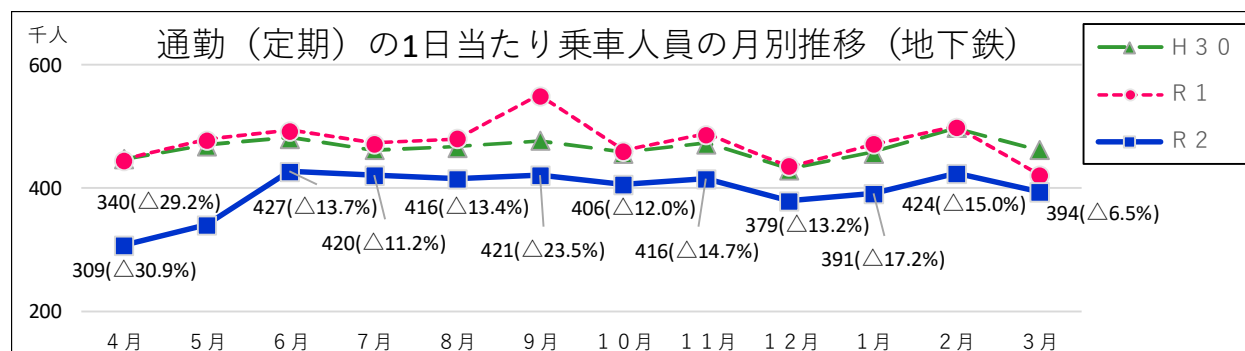
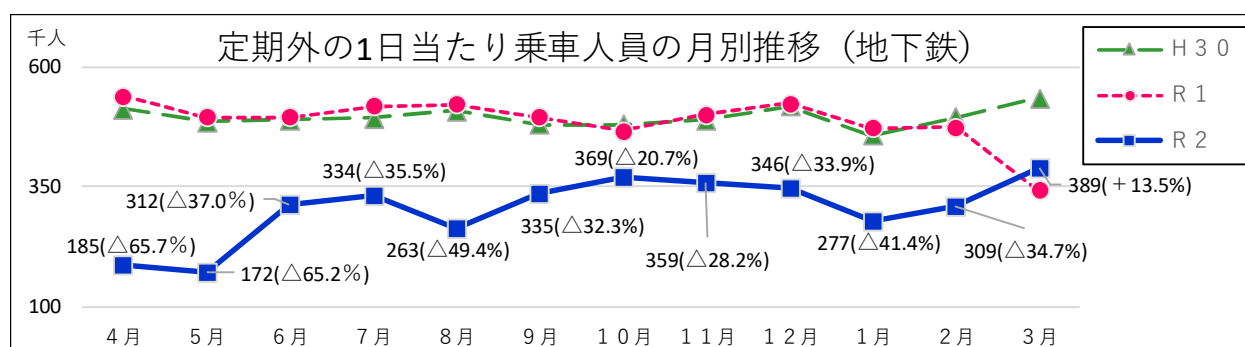
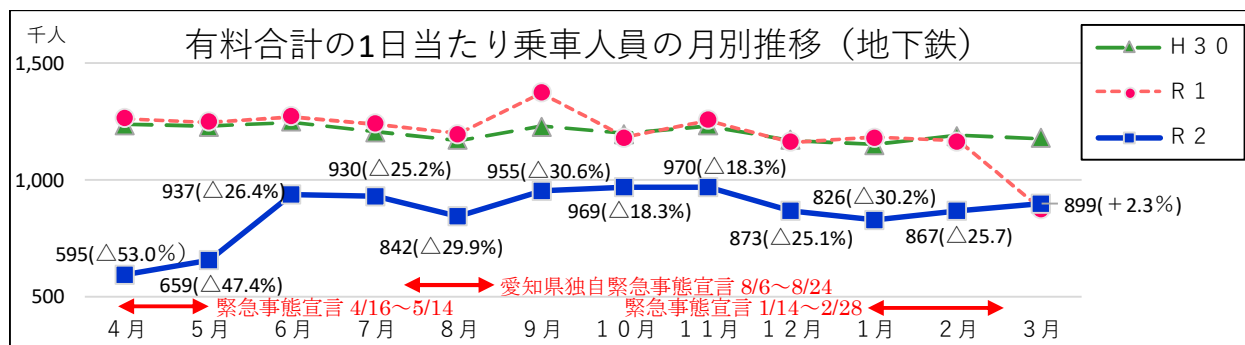
市バス



○ポイント

- ・最も乗車人員の少なかった4月は定期外△57.6%、通勤 (定期) △34.0%、通学 (定期) △54.7%となった。
- ・最も乗車人員の多かった7月は、定期外△26.7%、通勤 (定期) △9.6%、通学 (定期) △15.3%となった。

地下鉄

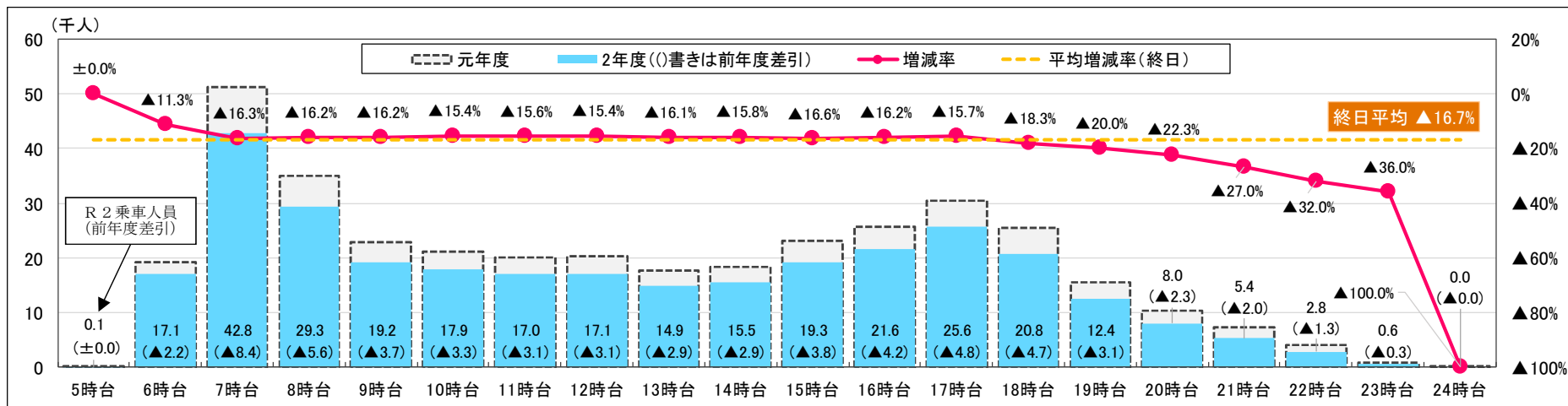


○ポイント

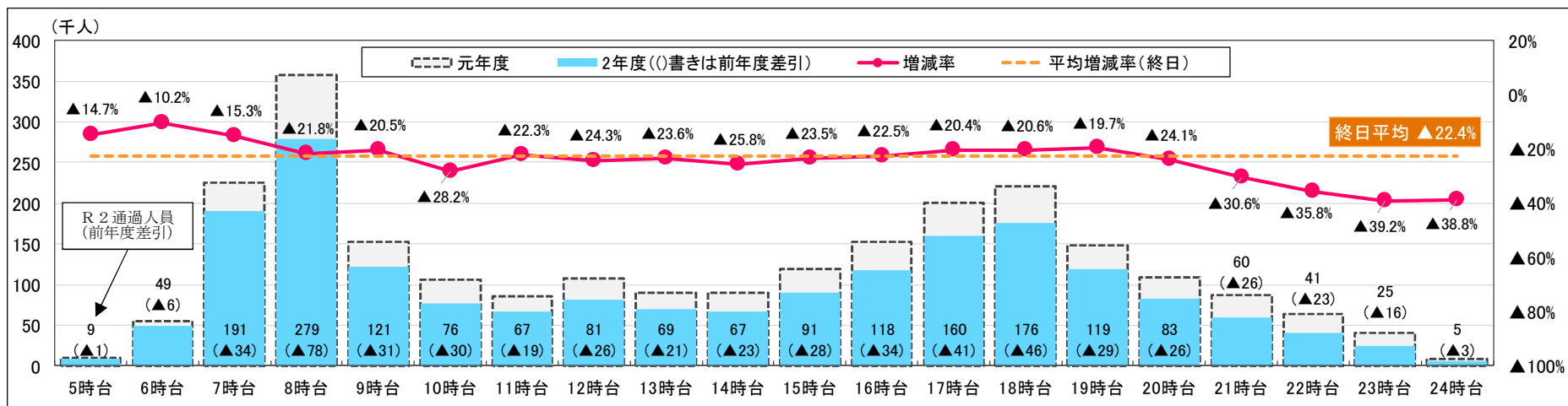
- ・最も乗車人員の少なかった4月は定期外△65.7%、通勤（定期）△30.9%、通学（定期）△63.8%となった。
- ・最も乗車人員の多かった11月は、定期外△28.2%、通勤（定期）△14.7%、通学（定期）△28.3%となった。

(3) 時間帯別利用動向（平日）

① 平均乗車人員（市バス）



② 平均改札機通過人員（地下鉄）

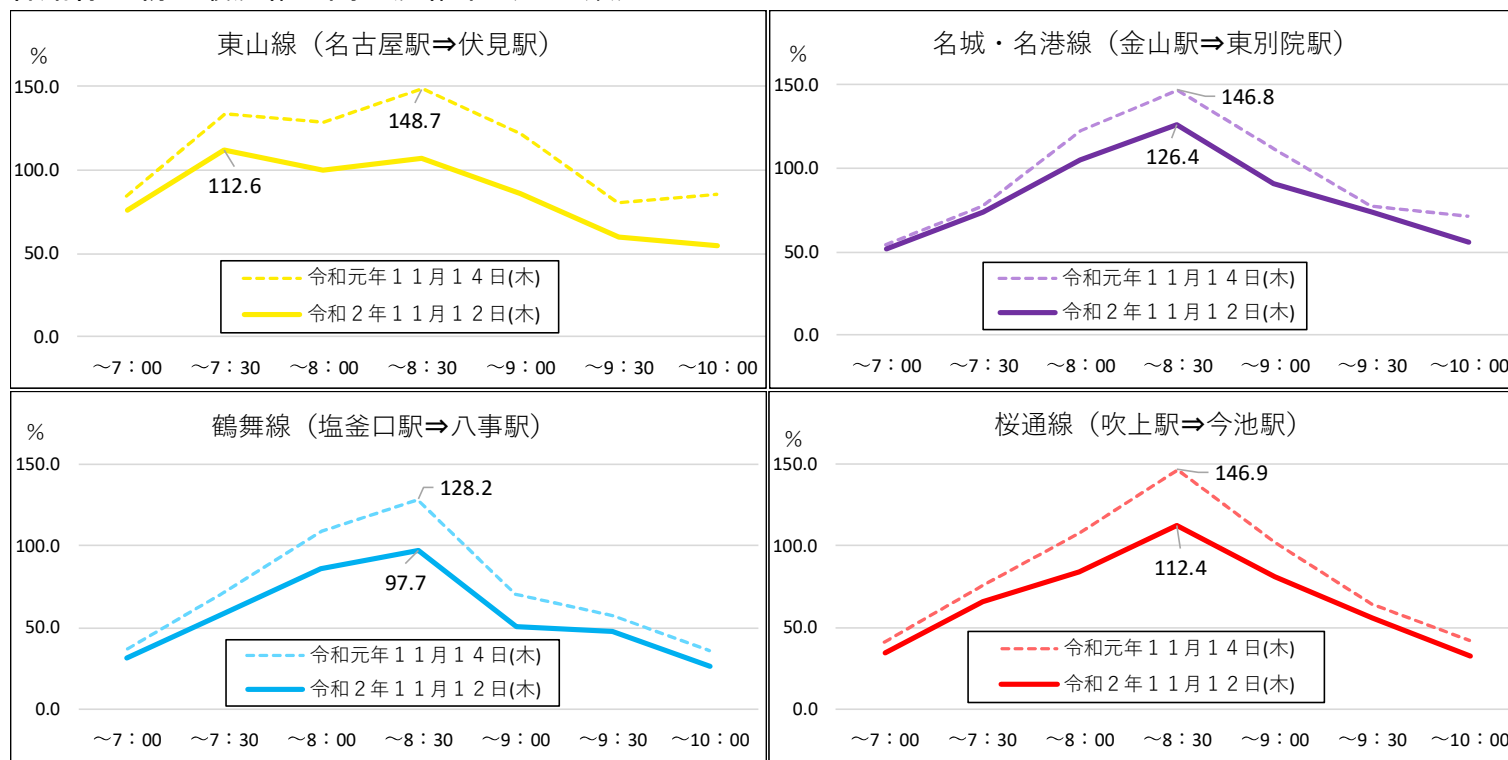


※1 対象期間は、令和2年11月12日(木)～18日(水)、令和元年11月12日(火)～18日(月)の平日5日間平均

※2 市バスの乗車人員は、始発停を発車した時刻の時間帯にすべて計上

※3 地下鉄の通過人員は、相互直通による名鉄線経由での乗降を除く

③ 各路線の朝の最混雑区間の混雑率（地下鉄）



※名城・名港線は、ホーム柵の設置に伴う運行ダイヤの改正により、令和2年度は運行本数が減少しています。

○ポイント

- ・市バスは、6時台は終日平均に比べ減少率が小さい。その後、7時台から18時台にかけて減少率が一定となっており、19時台以降、減少率が大きくなる。
- ・地下鉄は、6,7時台は終日平均に比べ減少率が小さい。その後、8時台から20時台にかけ減少率がほぼ一定となっており、21時台以降、減少率が大きくなる。
- ・各路線において、ピークの混雑率が前年に比べ大幅に低下している。また、東山線のピーク時間帯が、令和元年度は8:00～8:30であったが、令和2年度は7:00～7:30に早まるなど、利用状況が変化している。

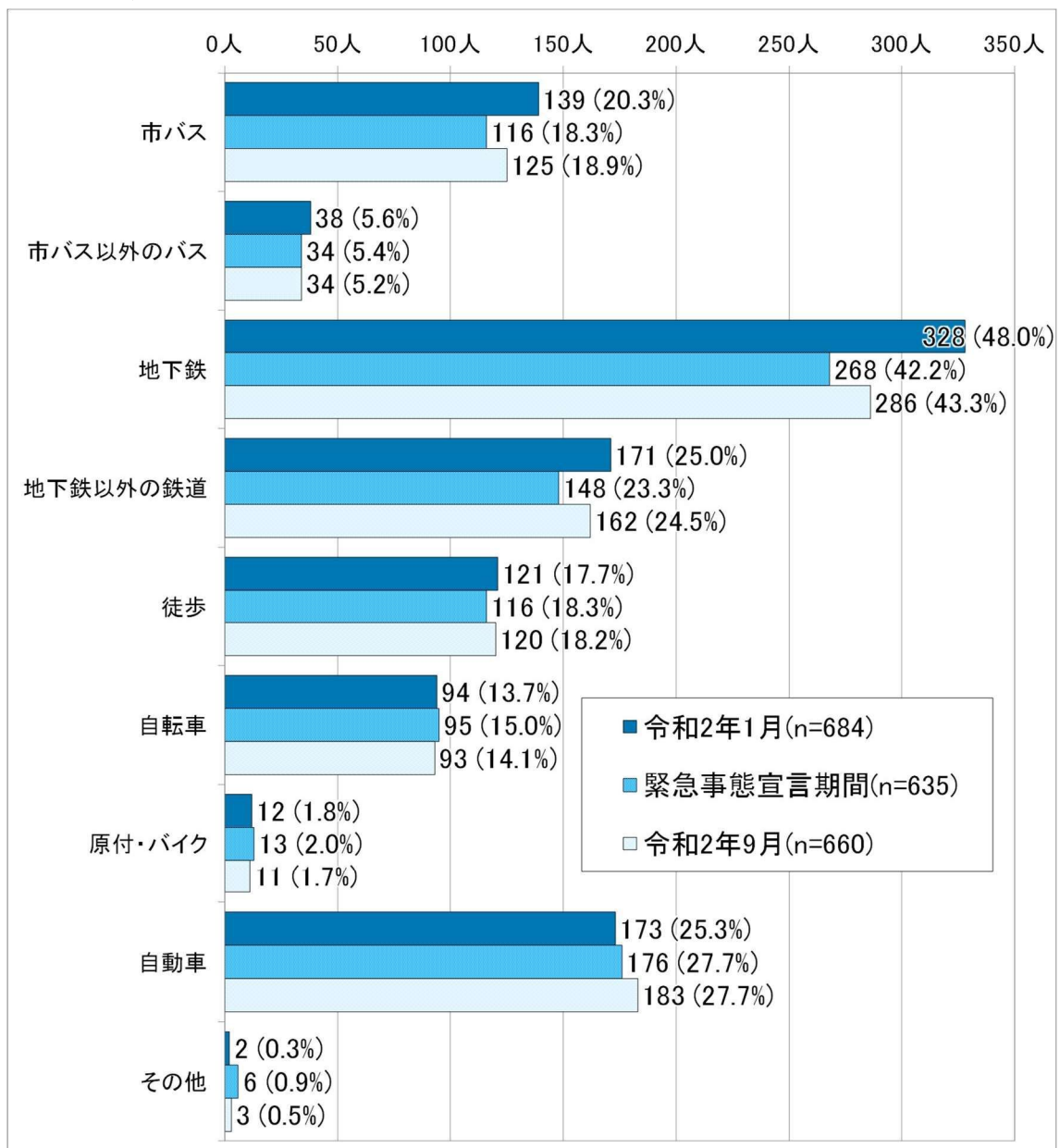
(4) 令和2年度「市バス・地下鉄の利用実態調査」

① 調査の概要

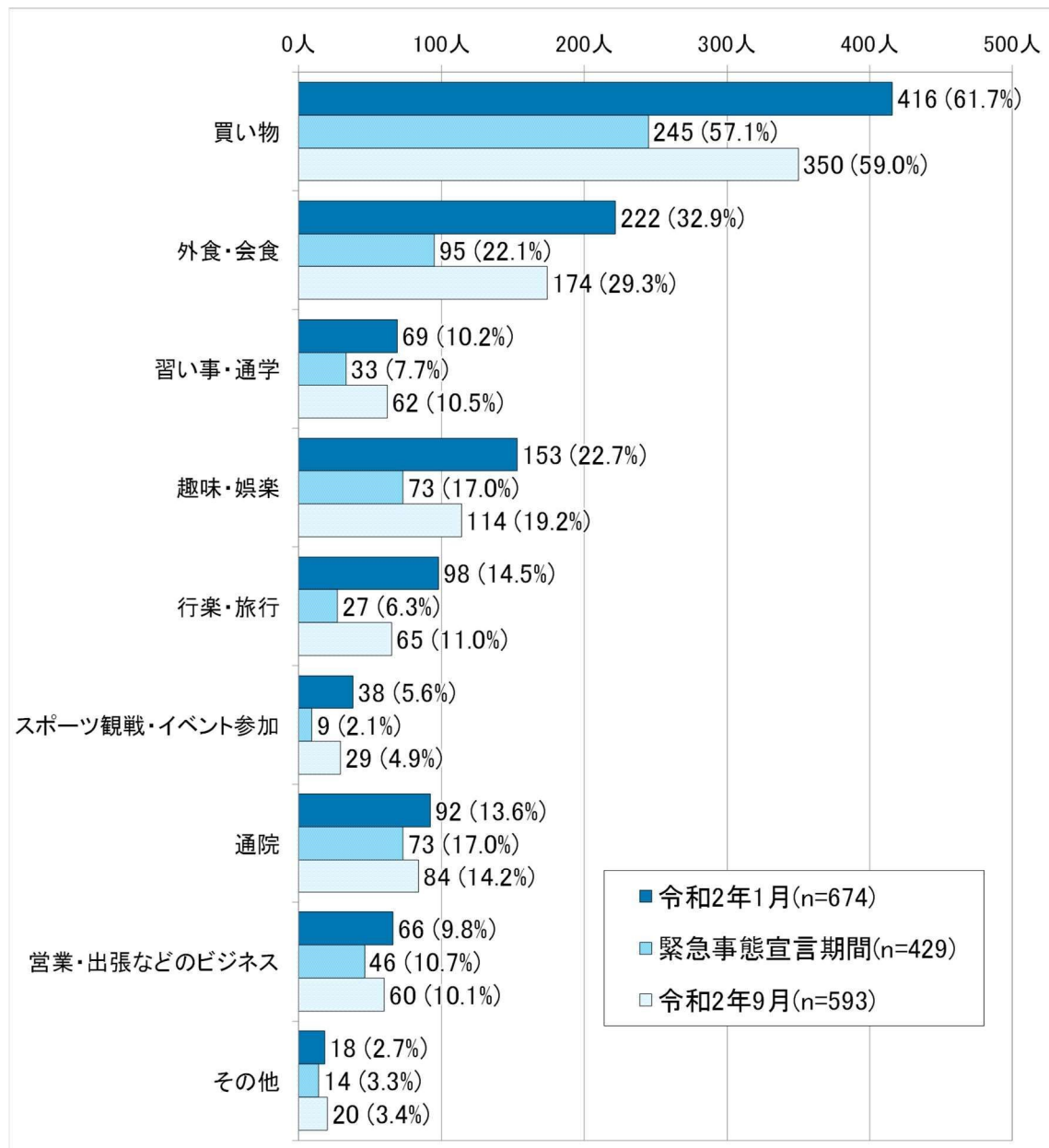
実施時期	令和2年10月
調査対象	令和2年10月時点で愛知県、岐阜県、三重県のいずれかに在住し、令和2年1月から9月までの間に、通勤で市バス、地下鉄を利用した人
回答者数	1,000人
調査内容	令和2年の1月、緊急事態宣言期間(4/16～5/14)、9月の各1か月間における市バス・地下鉄の通勤利用の状況、通勤以外の利用状況、働き方の変化等

② 主な調査結果

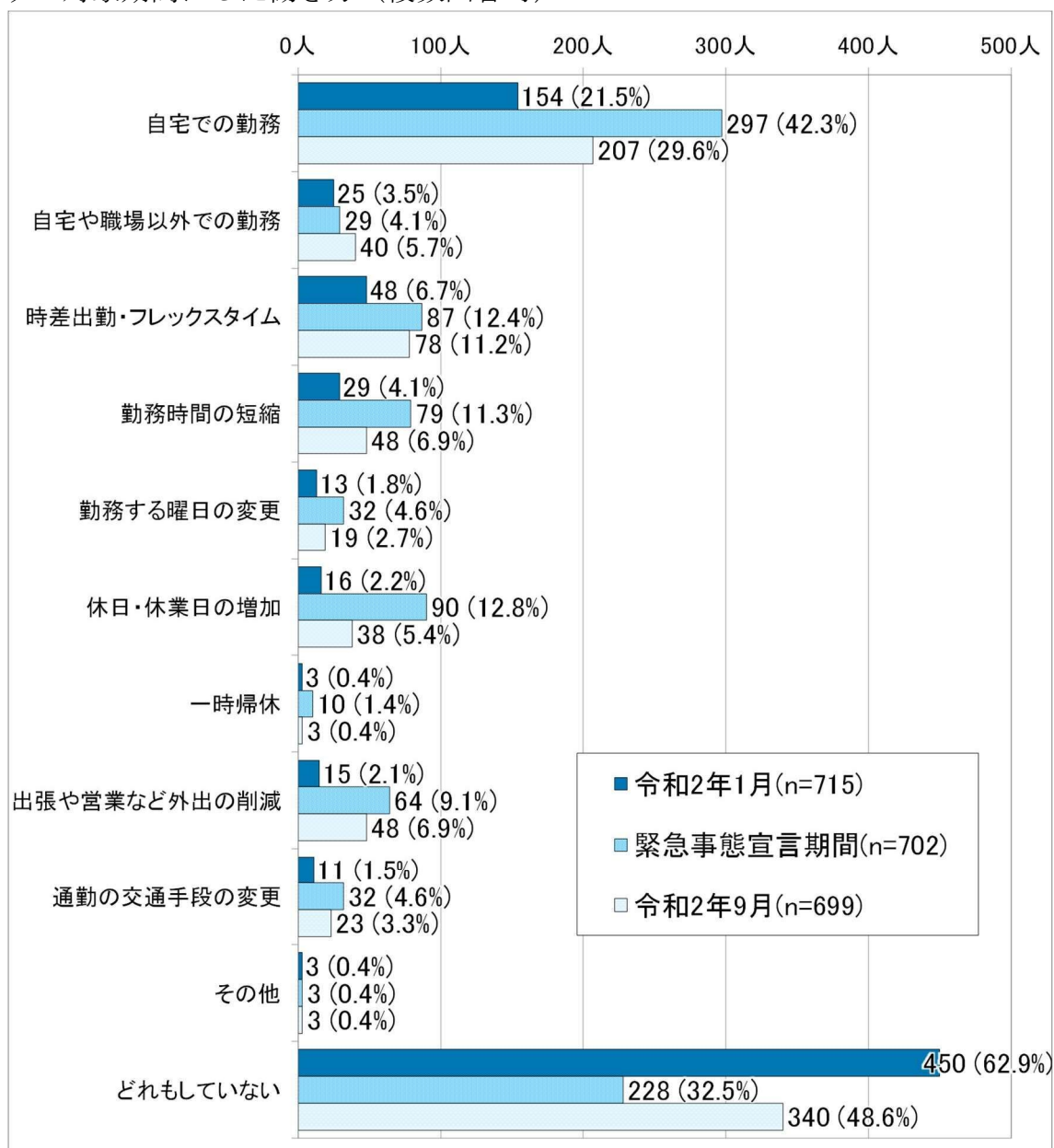
ア 対象期間に通勤で利用していた交通手段（複数回答可）



イ 通勤以外での利用目的（複数回答可）



ウ 対象期間にした働き方（複数回答可）



○ポイント

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、自宅での勤務の増加など働き方の変化が生じている。また、市バス・地下鉄の通勤での利用が減少しているほか、通勤以外での利用も減少するなど、市バス・地下鉄の利用にも変化がみられるようになっている。

（５）敬老パスの対象交通機関の拡大等（令和４年２月～）

① 対象交通機関の拡大

鉄道	名鉄・ＪＲ東海・近鉄の鉄道の市内運行区間
バス	名鉄バス・三重交通の路線バスの原則市内運行区間 ※市外であっても名古屋市営バスと重複する区間は適用

② 利用上限回数の設定

有効期間に利用できる回数が７３０回まで

（６）今後の交通局の対応

市バス・地下鉄の利用状況の変化や「新しい生活様式」の定着度合い等の調査※をしており、利用動向に大きな変化等を生じていると判断した場合は、市バス・地下鉄の運行時間や本数等の見直しについて、検討を行います。

※令和３年度市バス・地下鉄の利用実態調査の概要

調査方法	インターネットによるアンケート調査（民間の調査会社やインターネットサービス等に会員登録しているモニターを対象）
調査規模	愛知、岐阜、三重県に在住・在勤・在学する市バス・地下鉄の利用者 4,000 人以上
調査内容	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大前後での市バス・地下鉄の利用目的や利用頻度の変化 ・テレワーク等の新しい生活様式の定着度合い
スケジュール	・令和３年 ８月～ アンケートの実施 ・令和３年 ９月 委託業者からの中間報告 ・令和３年 10 月～ データの詳細な分析 ・令和４年 ３月 委託業者からの最終報告